

# 令和7年度第1回大分県総合教育会議 議事要旨

## 【日程】

日時 令和7年6月27日（木）

開会14時00分 閉会15時00分

場所 県庁本館4階 第一応接室

## 【出席者】

大分県知事 佐藤樹一郎

大分県教育長 山田雅文

大分県教育委員 高橋幹雄

大分県教育委員 鈴木 恵

大分県教育委員 岩武茂代

大分県教育委員 岡田豊弘

大分県教育委員 藤田 敦

## 【協議事項】

教育DXについて

## 【発言要旨】

### 協議事項 教育DXについて

#### (要旨)

- ・大分県の遠隔教育は最先端の技術を採用。オフライン、オンラインそれぞれの強みを生かし、リアルとデジタルの最適な融合を追求していく。
  - ・遠隔授業を活用し、県内どの地域に住んでいても質の高い教育を提供することを目指す一方、対面授業も非常に重要。
  - ・オンデマンドによる動画教材配信や1人1台端末整備は、生徒がいつでもどこでも、自分のペースで学習できるだけでなく、災害時の学習環境提供なども含め活用の幅は広い。
  - ・今後、遠隔教育は配信センターからの授業のみならず、例えば学校間の相互連携、高校の魅力向上、英語教育の強化など、様々な可能性を有している。
- 
- ・大分県の遠隔教育は最先端の技術を採用している。遠隔授業は県内どの地域に住んでいても質の高い教育を提供するのに有効だが、対面授業も必要。(高橋委員)
  - ・オンデマンドによる動画教材配信は、生徒が自宅等で見たい時に見られる非常に魅力ある取組。(鈴木委員)
  - ・自然災害発生時、自宅等で1人1台端末を活用することで、学びを止めないための有効な手段となり得る。(藤田委員)
  - ・現在の遠隔教育では、高いスキルを持つ教員が遠隔教育配信センターから配信を行い、さまざまな期待を受けながら奮闘している点を評価。将来は、遠隔教育配信センターからの配信にとどまらず、学校間で連携・相互配信できる仕組みとの組み合わせが最適。(岩武委員)
  - ・今は高校の魅力向上させるための取組が重要視されており、遠隔授業の活用や高い指導力を持つ教員の存在を示すことで、中学生に選ばれる高校づくりが求められている。(佐藤知事)
  - ・全国学力調査によると、大分県の小中学生の英語が平均を下回っている。高校生のスタンフォード大学遠隔講座での実践的な会話体験や、台湾における英語のみの授業を見て、小中学生にも同様の経験をさせたい。リモートを活用することで海外の子どもたちと交流する機会が生まれ、英語を学ぶきっかけになる可能性がある。(山田教育長)
  - ・生成AIは働き方改革に直結する業務効率化ツールであり、その効果的な活用が成功の鍵である。生成AIの利点を正しく判断するための知識を教育で提供し、教職員が現場授業や校務でそれをうまく活用することを期待している。(鈴木委員)